

障害不登校児の感性生かし

悲劇「オイディップス王」

来月11日に公演

八王子の更生施設で猛稽古

体に障害を持つ子や不登校の子供を、俳優に起用した演劇「オイディップス王」の準備が、八王子市の女子更生保護施設「紫翠苑」で進んでいる。法務省保護局が首領を取り、演出には言語デラボイント(言語治療家)で演出家の川手鷹彦さんを迎えた。芸術教育活動として企画されたが、古代ギリシャ語、ドイツ語、現代・古典的日本語を効果的に絡めた舞台は、「演劇」としても芸術性の高いものになりそうだ。

演出は言語治療家の川手さん

川手さんに法務省から話があったのは、2000年7月。非行少女らの立ち直りを支援する紫翠苑(橋古場として使い、施設の少女

や障害のある子供たちを核に、舞台を作るということだった。

芸術を通じた彼らの教育に加え、周辺の住人にも役者やスタッフなどさまざまな形で参加してもらうことで、更生保護施設についての理解を深めてもらうのも狙いだという。

川手さんも法務省側の狙いは理解した。さらに、やるからには演劇藝術として最高のものをつくる。それが結果的に「教育」効果につながると考えた。

合意の末、11月に初稽古を行った。稽古のある子供だけでなく、演劇に興味のある子やボランティアなど約30人が集まり、プロジェクトが済み出した。

川手さんは、ギリシャ悲劇「オイディップス」を題材に選んだ。父を殺し、



「オイディップス」の稽古をする川手さん
(左端)と俳優たち

母と情を通じるオイディップス王。これほど深刻でないままでも、現代の病理の究極の姿がこの悲劇の中にあると考えたのだと言う。

「私の言う障害という概

念には、自閉症やタウソン症など先天的なものだけでなく、非行や不登校など、家庭のさまざまな要因で起つてくる後天的なものも含んでいるんです」と川手さん。「感性豊かな彼らとなら、高レベルの舞台がつくれます。いつかやりたいと思っていた」。実際に2月11日に八王子市のクリエイトホールで開く公演に向か、稽古も最終段階に入った。

【若狭 紗】

講師陣には狂言の野村与十郎さんや、大鼓方の仙良勝さんらを迎えた本格的な

演劇。配役もほぼ決まり、

2月11日に八王子市のクリエイトホールで開く公演に向か、稽古も最終段階に入った。